

市民の意見

発行：市民の意見30の会・東京

NO.113
2009/4/1



発行者の住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-29-12-305 TEL:03-3423-0185 FAX:03-3402-3218
郵便振替：00120-9-359506 eメール：iken30@mwb.biglobe.ne.jp ホームページ：http://www.1jca.apc.org/iken30
*隔月刊/購読料・送料とも年2500円、一部400円、65歳以上および身障者の方は年2000円 グリーン会員の方は年1000円

当時、戦地からの「軍事郵便」はきびしい検閲をうけた。「天皇陛下万歳」「日本男児こゝにあり」といった文はとぎやっていたが
「愛しい人と会いたい」「故郷へ帰りたい」という文はとぎやなかつた。
そうした検閲の眼をくぐって、正喜は妻・芳子へ何通も便りを出す。
そこには妻の身体をいたわる言葉のほかに
美校時代、木炭デッサンのためにパンのみみを焼いてくれた姉、
自分たちの早すぎる結婚を許してくれた親兄弟への感謝がつづられてあった。
「二等水兵になったら休みがとれるのがたのしみ。どうか子供たちを大切に」
そんな言葉でむすばれた便りが最後になった。



河口 正喜「婦人像」

（無言館所蔵 作者の経歴は3ページ）

（窪島誠一郎『無言館の詩 戦没画学生「祈りの絵」第Ⅲ集』講談社刊より）

市民の意見 113号 目次

●巻頭詩 ガザ いま

●特集1 ガザの占領

ガザの占領を考える
2月5日緊急学習会「ガザ侵攻——イスラエルはなぜガザを攻撃したのか」
早尾貴紀 6

●米・ブッシュ政権の8年

悪夢の8年間をふりかえる——ブッシュ政権と日本のボチチ
高橋武智 8

●特集2 貧困化する現在

労働者の生存権を守る京品ホテル闘争
増える母子家庭 見えない自立への道
「年越し派遣村」の意義と今後の課題
渡辺秀雄 12
長谷川伸子 14
遠藤一郎 16

●憲法9条は常に新しい平和への理念

海の彼方に生きる9条——カナリア諸島ヒロシマ・ナガサキ広場を訪ねて
宇野淑子 18

●運動の現場から

東海地方へのPACC3配備
「殺すな！」が原点の死刑廃止を求めると小さな試み
加賀谷いそみ 22

●「海賊対策」という名の海外派兵

海賊派兵と海賊対策新法に反対しよう！ 21世紀の「義和団事件」——愚かな「海軍オリンピック」
井上澄夫 23

●意見広告運動事務局から

5月3日意見広告賛同締め切り間近！
葛西則義 26

●文化

《連載エッセイ》言葉の国産化 ⑩ 鈴木一誌 28
《映画の紹介》「タクシー・トゥ・ザ・ダークサイド」 本野義雄 29
《本の紹介》宮本なおみ著『革新無所属』 福富節男 30
《マンガ》「ふしぎの国のありか」 ⑱ まつだたえこ 31

●その他

事務局だより 横田からベトナムへ、など 吉川勇一 32
4月の読者懇談会のお知らせ 25 インフォメーション
読者のおたより 33 編集後記/会計報告

◆本号のすべてのカット 吉岡セイ 36
◆題字 安西賢誠

★4月の読者懇談会のご案内★

・米国のテロ容疑者拷問を描く映画「タクシー・トゥ・ザ・ダークサイド」上映会と高橋武智さん（本号執筆者）のお話（P29参照）
日時：2009年4月13日（月）午後6時半 参加費500円/場所：たんぽぽ舎（JR水道橋駅5分 ダイナミックビル5F）
電話：03-3238-9035 地図ウェブ：http://www.tanpoposya.net/info/map.htm（地図はP25参照）

ガザ いま

石川 逸子

ガザ いま 通学途上の子どもたちは 瓦礫の下敷きに

ガザ いま 窓ガラスを破られた暗いアパートで ひとびとは凍え

ガザ いま イスラーム大学の校舎は崩れ落ち 病院もねらわれ

ガザ いま 消防署が国連事務所が 難民キャンプの警察署が 爆撃され

ガザ いま 救急車も炎上し 野菜市場は空爆され

ガザ そのひとりたちはなにをした

(先祖伝来の土地を追われ 逃れてきただけ)

ガザ そのひとりたちはなにをした

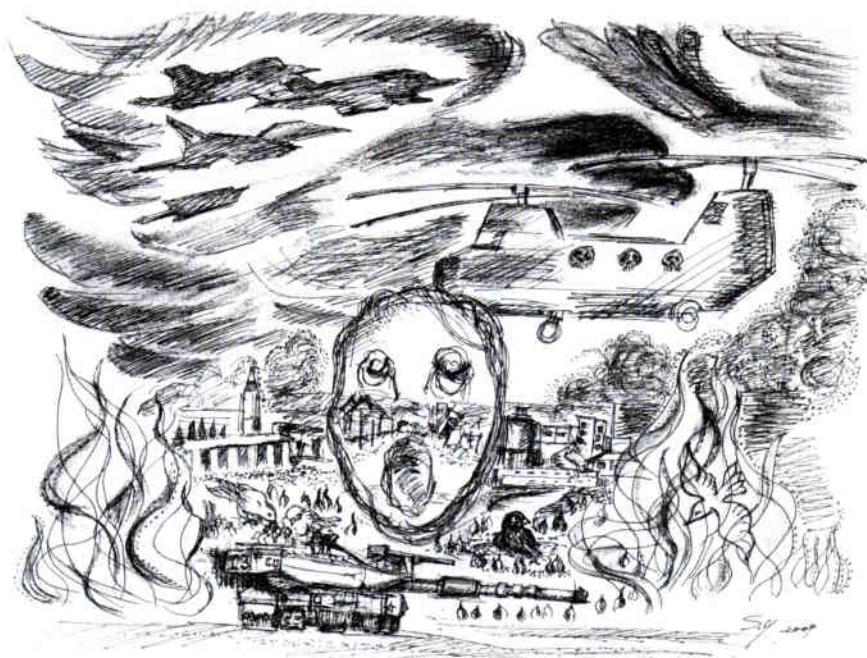
(入植者に四〇%の土地も奪われ ひしめき暮らしているだけ)

ガザ そのひとりたちはなにをした

(出口・入口をふさがれ 袋のネズミにされているだけ)

ガザ そのひとりたちはなにをした

(道路もおりおり封鎖され 仕事にも学校にも行けないだけ)



ガザ いま その地に イスラエル機は無差別爆撃をおこない

ガザ いま その地に イスラエル戦艦はたえまなく砲撃をくわえ

ガザ いま その地に イスラエル戦車はわがもの顔に進撃し

ガザ いま アメリカ議会は そのイスラエルを支持し

ガザ いま その地で 夜もひとびとは逃げまどい

ガザ いま その地で もがきながら息絶えた ひとびと

ガザ いま その地で 両腕をもがれた 子どもたち

ガザ いま その地で 葬列はたえまなく

ガザ ガザ ガザ

ガザ その地はいま 水も電気も絶えかけ 食糧も危うく

ガザ その地でいま ながれ ながれつづける 無辜の血

ガザ・・・ガザ・・・

▼ 詩の作者について ▲

いしかわ・いつこ

1933年東京生まれ。「狼、私たち」でH氏賞。戦争を否定する数多くの詩作で知られる。「ガザ いま」は、08年12月末からのイスラエルによる一方的な攻撃をきっかけにつくられたもので、ネット上で静かに広まっている。詩集・著作に『千鳥ヶ淵へ行きましたか——石川逸子詩集』（花神社）、『ヒロシマ・死者たちの声』（径書房）、『「日本の戦争」と詩人たち』（影書房）、『「従軍慰安婦」にされた少女たち』（岩波ジュニア新書）、『オサヒト覚え書き』（一葉社）など多数。

▼ 表紙絵の作者 ▲



河口 正喜

(かわぐち・まさき)

1912（大正元）年10月13日、福岡県山門郡三橋村に4男1女の次男として生まれる。二ツ河尋常小学校を経て、県立中学伝習館を卒業後、1931（昭和6）年4月、東京美術学校（現・東京芸術大学）油画科に入学。1936（昭和11）年3月、卒業。学生時代に同棲していた芳子と結婚するが、その直後に召集令状が届き、妻子をのこして出征する。1945（昭和20）年1月8日、南方へ向かう途中で輸送船が爆撃され戦死（行方不明）。享年32歳。

特集1 ガザの 占領

本誌前号(112号)でガザ侵攻に対する緊急特集を組みました。パレスチナにおける占領問題はガザだけで語り得るものではなく、むしろ西岸地区のほうが表面に出てこない分大きな問題を含んでいるかもしれない。そこで今号は前号にひき続き、ガザに焦点をあてつつパレスチナ全体を含めて「占領」について考察してみます。

ガザの占領を考える

細井 明美

◆ナクバ(大災厄)

ガザの問題を考える前に私たちはイスラエル建国の歴史をたどる必要があるだろう。1948年2月イスラエル建国を前にしてユダヤ人指導者はパレスチナ人の追放を計画、手始めに地中海沿岸の5つの村を排除した。イギリスは治安維持の責任があったにも関わらず、パレスチナ人たちがトラックに乗せられて国境の外に追放されるのを黙認した。その後、彼らは全体を12の地域に分割して軍隊を配備、各地域の町や村のリストを持たせ、効率よくパレスチナ人を排除していった。こうしてイスラエル建国の前にすでに35万人のパレスチナ人が故郷から追放された。そして、残りの人びとを追放するために彼らは戦争を利用した。すなわち戦争はパレスチナ人を民族浄化するための手段だった。

建国後、500の村と11の町が破壊され、100万人のパレスチナ人が難民と

なった。追放を拒絶したパレスチナ人に対しては虐殺、レイプ、略奪、投獄が行なわれ、投獄ののち強制労働収容所へ送りこまれた。かつてナチスによって行なわれた異民族の排除をユダヤ人指導者は国際社会の見ている前で平然と行なった。そして誰もがそれを見つとも沈黙していた。何が起こっているのかを報告したものはプロパガンダとして扱われ、反ユダヤのレッテルを貼られた。ホロコーストはイスラエルの罪を隠蔽する大きな役割を果たしたのだろうか。1948年はパレスチナにとってはナクバであるが、イスラエルにとってはイスラエル帝国建設の第1歩だ。「帝国」は領土を拡大することを国是としている。

◆生存不可能な場所——ガザ

パレスチナを追われた人びとの一部は当時エジプト領であるガザにたどりついた。ガザは小豆島ほどの土地に150万人が住み、人口密度は世界1といわれ、ジャバルヤ難民キャンプだけで1平方キロあたり7万4000人(東京都区内の人口密度は1万3000人)が住んでいる。出生率も高く、1人の女性から5〜6人の子どもが生まれる。したがって毎年人口が3〜5%増加する。人口の50%は15歳以下の子どもたちだ。また、08年の国連の食糧支援は18万2400家族に及び、80%の住民が国連の援助なしでは生活出来ない。ガザは住民が生存不可能な地域の初めてのケースといわれている。

だがこの絶望的な貧困はイスラエルの占領政策と大きな関係がある。05年6月、ガザで唯一の発電所がイスラエルの攻撃により破壊された。この発電所はガザ地区の45%の電力を担っていた。この攻撃は生活そのものを破壊する要因となったので、イスラエルの人権擁護団体ベツセレムはこれを国際法違反だとして告発している。同じ年、イスラエル・シャロン首相によるガザからの「一方的撤退」が行なわれ、国際社会は非常に評価したが、さらなる貧困に人びとを追いやった。ガザ北部にイスラエルが67年の占領開始後すぐにつくった工業団地がある。そこで大量のパレスチナ人労働者を低賃金で雇い入れ、経済的にガザ地区をコントロールしてきたが、05年のガザ撤退と同時に同工業団地を放棄、大量の失業者をだした。その上で、国境を封鎖して物流を止めた。しかも国際社会はガザからイ



イスラエルが撤退したのだから、パレスチナ国家の建設はパレスチナ自身の責任であるとした。しかし、シヤロンが中心となって策定した「ガザ撤退案」(Disengagement Plan)では、制空権・制海権はイスラエルが掌握し、国境はイスラエルの管轄となっている。しかもガザの人びとが支払う税金はパレスチナ当局が徴収しイスラエルに渡る。これが「自治」だろうか。

08年11月4日、イスラエルはハマスとの停戦協定を破り、これまでにないほどの攻撃をしかけてきた。翌11月5日から、イスラエルはガザ地区に入るすべての検問所を封鎖し、食糧・医療品・燃料・調理ガス・水道および衛生設備の部品などの供給を大幅にカットした。すべて、あらかじめ計画

されたものとしか言いようがない。同年12月27日、陸・海・空からの総攻撃で、23の病院、60の学校が破壊され、40000家族が散りぢりになり、被害は21億ドルといわれている。米ハーバード大学中東研究所のサラ・ロイ氏は「ハマスを叩くことが攻撃の目的ではない。パレスチナの抵抗精神への攻撃だ」とし、「占領を終えることがもつとも重要。もしこのまま占領を続けるならさらなる暴力に向かうだろう」と言う。

◆西岸では土地の細分化が進む

一方、ファタハが実権を握る西岸地区に目を転じると、パレスチナ人の土地は細分化され、国家としての経済活動を維持できないほど切れぎれにされてしまった。ユダ

ヤ人の入植地はオスロ合意後さらに増え続け、通りの名前もユダヤ風に改められ、パレスチナ人が存在していたことさえ消し去ろうとしている。前述のガザ撤退案では、

①西岸に高さ9メートル、長さ620キロメートルの壁を建設。
 ②40万人のユダヤ人入植者のために400キロの高速道路を建設。
 ③東エルサレムを孤立させ、西岸地区とガザ地区を分離」とあり、①の壁の建設により隔離されたパレスチナ人は12%から54%に増える。つまりガザ撤退案は西岸地区とエルサレムをイスラエルに統合し、ガザを監獄にするための足がかりだったので。93年のオスロ合意以降、イスラエルはもちろんアツバス議長(ファタハ)も「占領」という言葉を使わない。「自治政府」になったからというのが理由だが、イスラエルの「管理」はより強化され、実態は「自治」からかけ離れたものになっている。

イスラエルが自らの野望のためにパレスチナの人びとに強いる植民地政策と民族浄化に私たちは加担してはならない。前述のサラ・ロイ氏は、パレスチナにおけるイスラエルの「管理」が明らかになる方向での国際援助が必要だと言う。日本政府はすでにガザ復興支援で2億ドル(195億円)の拠出を表明しているが、その援助のあり方が問われている。

(ほそい・あけみ、本誌編集委員)

ガザ侵攻

—イスラエルはなぜガザを攻撃したのか—

2月5日緊急学習会の報告

ガザ緊急学習会はパレスチナ映画「レインボー」上映の後、早尾貴紀（はやお・たかのり）さんにガザ侵攻の背景について話していただきました。

●低賃金労働者としてイスラエルで働く

ガザ地区というところは非常に狭いところ。英語で「ガザ・ストリップ」。ストリップは切れ端という意味ですが、長方形の形をして40km×9km＝360km²ぐらいのところ。1948年前後にパレスチナ人が難民として大量に逃げ込みました。結果として人口の7割が難民およびその難民の両親や祖父母を持つ2世以下の世代という状況になりました。つまりガザ地区全体が難民キャンプだと考えていいと思います。49年から67年の間はエジプトが管轄していました。67年に第3次中東戦争が始まり、イスラエルはガザ地区も含めたシナイ半島全体、西岸地区、シリアのゴラン高原を占領下に入れます。その後エジプトとイスラエルは和平合意を結び、イスラエルはシナイ半島をエジプトに返還しますが、ガザ地区はそのまま現在にいたるまでイスラエルの占領下にあります。

67年から87年までイスラエルは西岸地区とガザ地区を自分たちの属地とみなしていました。もちろん住民には市民権は与えませんが、イスラエルによるさまざまな規制が働いているため地場産業がつかず、パレスチナ労働者はしかたなくテルアビブやその近郊の工業団地・建築現場へ、肉体労働者、清掃業、運転手、サービス業、皿洗いなどの職を得て働きに出ています。すなわちパレスチナ内では資材や技術などの持ち込みは厳しく制限され、経済発展の可能性がないため、現金収入を得るために低賃金労働者としてイスラエル側で働くしかないのです。イスラエルにとってもパレスチナ人は従順でヘブライ語をよく話し、しかも得た賃金でイスラエル製品を買ってくれるという非常にありがたい存在でした。

そんななかで87年、これまでの不満の蓄積が爆発するかたちで最初のインテファダがガザ地区から起こりました。このインテファダは組織的な抵抗運動として87年から91年くらいまで続きました。93年のオスロ和平合意というのはインテファダのひとつの清算の形でした。インテファダで崩れた関係をどうやって再編するのか、これがオスロ合意だったわけです。

ところで、世界中がオスロ和平合意をひとつの基準点として考えています。ハマス政権をボイコットする理由にハマスはオスロ合意を承認しないからだというのがあり

ます。ではオスロ合意とは何か？ ハマスはなぜオスロ合意を遵守しないのか？ それが今回のガザ攻撃を考えるヒントになると思います。

●オスロ和平合意がもたらしたもの

オスロ合意というのはアラファトを代表とするファタハを中心につくられたPLO（パレスチナ解放機構）を今後の交渉の代表つまり「パレスチナ自治政府」としてイスラエルが承認する代わりに、PLOもイスラエルを国家として承認しようというものです。しかし、すでに西岸地区にたくさんできていたユダヤ人入植地の問題、それからイスラエルが管理している西岸地区の水の問題（水を西岸地区から収奪して、その多くをユダヤ人の入植地とイスラエルに送っている）、難民の帰還権、併合されたエルサレムの問題、ほかにも色いろありますが、オスロ合意では全部棚上げにされました。しかも93年から現在にいたるまで西岸地区の中の入植地建設というのは止まったためしがなく、93年時点から2000年までに入植者の数は20万人規模から40万人規模へと倍増、現在では45万人を越えています。

またガザ地区が、北側の境界線も全部フェンスで封鎖されたのは93年からです。93年のオスロ合意により監獄化が始まりました。監獄化のうえ労働許可が減っていき西岸でもガザ地区でも失業率が高まっています。イスラエルが境界線を管理しつづけ、物資や技術